



特定非営利  
活動法人

# 福島県防災士会 10年のあゆみ

日本防災士会 福島県支部

JAPAN BOUSAISI SOCIETY  
日本  
防災士会





ごあいさつ

特定非営利活動法人福島県防災士会 理事長 滝田吉宏

福島県防災士会（日本防災士会福島県支部）創立10周年にあたり、ご挨拶を申し上げます。

福島県防災士会は平成24年8月18日、未曾有の東日本大震災直後で混乱の続くなか、初代藁谷俊史支部長を中心に会員26名にて発足しました。その後平成29年5月31日、特定非営利活動法人福島県防災士会（初代藁谷俊史理事長）に法人化しました。現在会員数156名の正会員と賛助会員個人4名・団体16団体<sup>2022年6月現在</sup>で事業を推進してまいりましたが、早10年の節目を迎えることとなりました。

この間令和3年、4年の2回にわたる震度6強の地震や台風・ゲリラ豪雨による大きな浸水被害など、平成23年東日本大震災以降にも福島県内は、さまざまな大きな災害に見舞われ続けておりました。さらにこればかりではなく、福島県には、火山や豪雪などもあり、多岐にわたるリスクが顕在していることから、県民の防災意識は今まで以上に高まっているところではないでしょうか。

防災士は、普段から各会員がそれぞれの地元で、行政・企業・学校・町内会・自主防災会などの連携をして、予防防災活動を行っており、防災のリーダーとしての立場を担っております。

大きな災害が発生した時には、いち早く声を上げ、自助・共助を促して、安全と安心を確保しながら復旧正常化を目指していく、そのような大切な役割をする存在となっております。

福島県内には防災士の資格を有している方が、約3300人おられます。これからはより多くの防災士の皆様に防災士会に会員登録いただき、日々進化している防災のノウハウを提供する機会を用意しながら、より多くの地域に防災減災の啓蒙活動を実施してまいりたいと考えております。

最後にこれまで福島県防災士会をご支援くださいました、関係各位の皆様方に深く感謝申し上げます、これからも引き続き防災士として、さらなる減災をめざして予防活動や有事活動をリードしてまいりたいと存じますので、ご支援ご協力賜りますようお願い申し上げます。





## 福島県支部設立10周年へのメッセージ

日本防災士会理事長 室崎 益輝

日本防災士会の福島県支部の設立10周年を、心からお祝い申し上げます。

と同時に、この10年間の貴支部のご活躍に、心から感謝申し上げます。災害が、巨大化し激甚化する時代、多様化し複合化する時代を迎え、地域密着型の防災の専門家としての防災士の役割は、年々大きくなっています。ひとり一人の防災士がその力を発揮するためには、安全を希求するすべての人々と連携すること、とりわけ防災士相互が協働しつながらることが欠かせません。その連携と連帯のエンジンとなるのが、日本防災士会であり防災士の県支部です。

福島県支部は、何よりも地域住民に寄り添い、さらには行政との信頼関係を構築し、大学などの研究機関とも連携して、福島県の地域の安全と安心のために、尽力されておられます。その実績に対しては、心から敬意を払いたいと思います。とりわけ、東日本大震災で放射能汚染を含む深刻な被害を受ける中、また3月の福島沖地震で甚大な被害を受ける中、減災と復興の先進的な取り組みを被災地のために展開されていることに、敬服いたしております。

防災士には心・技・体が求められます。その心技体を磨くうえで、防災士の活動が欠かせません。「みんなで防災、ご一緒に防災」の気持ち大切に、防災士会として取り組んでゆくことが求められます。福島県支部は、その原点を大切に作り組まれ、被災地復興だけでなく防災教育や防災まちづくりにも大きな成果を上げておられます。その成果をさらに広げ、全国の防災士や防災士会に刺激を与えていただきたいと思っております。

日本防災士会にとって、地域密着型の活動が大切で、県支部の取り組みが基本だと考えています。その県支部の活動を強化するうえで、すべての防災士のみなさんに、地域ブロックや県レベルの防災士会に加入していただき、地区防災計画の取り組み、避難所運営の取り組み、子どもたちへの防災教育の取り組みを、組織的に展開していただければと思います。

福島県支部が、そのトップランナーになっていただくことを願って、お祝いのメッセージに代えさせていただきます。



## 慶 祝

日本防災士会会長 浦野 修

特定非営利活動法人日本防災士会福島県支部の十周年を迎えられ、心からお祝い申し上げます。

時の移ろいの中に、心のこもった思いやりの気持ちがあり、時として見せる情熱や連帯、どの行動にも、貴重な体験、歴史からの学びを風化させない、途絶させまいとする信念の強さが随所に見られ、皆様の努力の数々に心から深甚なる敬意を表する次第です。

二〇一一年の衝撃的な東日本大震災の翌年、二十六名の防災士会員をもって支部を立ち上げ、藁谷俊史氏を支部長として躍動気迫に満ちる活動の一步が踏み出されました。県内各市町村の各種防災訓練に参加すると共に、生命を守る防災活動を実行に移し、行政やNHK等と災害防災協定を結ぶ等、信用・信頼を高め、大きな成果を収めたことは特筆すべき事であり、支部姿勢の崇高な活動理念を感じます。我々は極めて短い時間の中で、災害の数々を体験し、その都度学んできました。特に支部の皆様には、各地の災害現場に駆け付け、被災地復興支援に当たる他、支援金を寄贈する等、地域に寄り添う模範的な活動をも繰り返され敬服の至りです。

最近の多様化する災害によって生ずる人的・物的損害は計り知れず、傷心は癒えることはありません。この苦悩を厳粛に受け止め、災害の備えに叡智を集し万全を期すことこそ喫緊の課題でもあります。

災害時には、知識と経験のある実働部隊は大きな力を示します。そこに防災士の期待される役割があります。さらに平常時の対応では避難所開設運営訓練、地区防災力の向上、学校の訓練等、官民・民の橋渡しとなり存在感を示す使命を帯びています。その為にも、あらゆる境を取り払い、各種団体や郵便局長の防災士が地域や支部活動に融合し、地区防災計画推進の担い手として力を注ぎ、尊い生命を守る先鋒になって頂ければと願っています。また、会の女性防災推進委員会を中心に、シンポジウムや会議を重ねています。防災には女性の視点が必要不可欠であり、強固に進めなければならぬ課題があります。

防災、減災の備えこそ、平時の今だからしなければならぬ課題です。コロナも災害であり、この現実も加えた取り組みを醸成し、安心安全な社会の為の一翼の担い手とし、あり続けて欲しいと願っています。

備えを生活習慣化する啓蒙活動を進めていく事を確認し合い、克つ災害忘れまじを合言葉に節目の慶賀の挨拶いたします。

# 10年の活動記録

## 2012年度 平成24年4月～平成25年3月

- 8月18日 日本防災士会福島県支部が26名で発足。設立総会を開催する。初代支部長に藁谷俊史氏を選出
- 12月7日 三陸沖地震M7.3
- 1月30日・31日 福島県住民参加型防災訓練とワークショップへ参加
- 2月10日 第4回いわきサンシャインマラソン 救護員協力

## 2013年度 平成25年4月～平成26年3月

- 9月1日 福島県総合防災訓練(二本松市会場)へ参加 ①
- 9月27日 会津若松市総合防災訓練(東山小学校) 避難行動要支援者避難訓練参加
- 10月5日 桑折町総合防災訓練(半田醸芳小学校) 避難行動要支援者避難訓練参加
- 10月20日 新地町防災訓練(福田小学校) 避難行動要支援者避難訓練へ参加
- 11月2日 西ノ島噴火

## 2014年度 平成26年4月～平成27年3月

- 4月15日 福島県と『防災に係る相互協力に関する協定書』を締結
- 6月20日 NHK福島放送局 ふくみみラジオ「教えて！防災はかせ」
- 8月20日 広島県広島市(安佐北区、安佐南区)で大規模な土砂災害が発生
- 8月31日 福島県総合防災訓練(市民スポーツ会館)参加
- 9月7日 下郷町防災訓練(下郷町役場) 避難行動要支援者避難訓練参加
- 9月27日 御嶽山噴火
- 9月27日 大玉村防災訓練(大玉村保健センター) 避難行動要支援者避難訓練参加
- 10月18日 福島市総合防災訓練(信夫ヶ丘緑地公園等) 避難行動要支援者避難訓練参加
- 11月22日 長野県北部地震M6.7

## 2015年度 平成27年4月～平成28年3月

- 8月30日 福島県総合防災訓練(南相馬市)参加
- 9月9日 関東・東北豪雨  
～11日
- 9月13日 喜多方市総合防災訓練(御殿場公園運動広場) 避難行動要支援者避難訓練参加
- 10月1日 平田村防災訓練(勤労体育センター) 避難行動要支援者避難訓練参加
- 10月21日 福島県石油コンビナート防災訓練(広野火力発電所)参加
- 11月22日 第24回全国ボランティアフェスティバルふくしま

(ビッグパレットふくしま/日本大学工学部)参加

- 11月25日 福島県避難行動要支援者図上避難訓練(二本松市)参加
- 11月28日 いわき市原子力防災実働訓練(いわき市小川地区)参加
- 12月4日・5日 福島県自主防災組織リーダー研修会(郡山市)参加
- 1月16日 いわき市津波避難訓練(いわき市藤間中学校)参加
- 2月18日 福島県災害応援協定ネットワーク会議参加

## 2016年度 平成28年4月～平成29年3月

- 4月1日 福島県自主防災組織活動促進事業の講師として参画
- 4月14日 熊本地震M6.5
- 4月16日 熊本地震M7.3
- 5月12日 いわき市と『防災に係る相互協力に関する協定書』締結
- 6月25日 熊本地震被害支援活動 熊本県支部へ支援金寄贈 ②
- 8月27日 郡山市総合防災訓練(芳山小学校)参加
- 8月28日 福島県総合防災訓練(会津若松市)参加
- 9月25日 鮫川村防災訓練(鮫川村保健センター) 避難行動要支援者避難訓練参加
- 10月2日 川俣町防災訓練(小島公民館) 避難行動要支援者避難訓練参加
- 10月23日 天栄村防災訓練(天栄村健康保健センター) 避難行動要支援者避難訓練参加
- 10月29日 いわき市原子力防災実働訓練(いわき市川前地区)参加
- 10月29日・30日 福島県地震防災セミナー参加
- 12月17日 福島県自主防災組織リーダー研修会(南相馬市)参加
- 12月18日 福島県自主防災組織リーダー研修会(福島市)参加
- 12月28日 茨城県北部地震M6.3
- 1月21日 福島県防災士養成フォローアップ研修会参加
- 1月29日 NPO法人化に向けた臨時総会開催
- 2月16日 NPO法人化設立認証申請手続き書類の提出

## 2017年度 平成29年4月～平成30年3月

- 4月29日 いわき短期大学で地域防災計画学の講義開始
- 5月31日 特定非営利活動法人福島県防災士会設立
- 7月5日 九州北部豪雨  
～6日
- 7月15日 ばんげ安全安心フェスタ(会津坂下町中央坂下公民館)参加
- 7月19日 三春町岩江地区自主防災組織研修会(岩江地区防災コミュニティセンター)支援
- 8月2日 秋田県洪水被害支援活動 秋田県支部へ支援金寄贈
- 8月6日 南相馬市中太田防災会研修会(中太田集会場)支援
- 8月18日 九州北部豪雨被害支援活動 九州地方支部連絡協議会へ支援金寄贈

- 8月26日 会津美里町防災訓練(旧尾岐小学校)参加
- 8月26日 郡山市総合防災訓練(小山田小学校)参加
- 8月27日 福島県総合防災訓練(福島市/福島県消防学校)参加
- 9月3日 北塩原村防災訓練(裏磐梯小学校)避難行動要支援者避難訓練参加
- 9月9日 お天気フェア2017(福島市/四季の里)参加
- 9月24日 西郷村防災訓練(西郷村社会福祉協議会)避難行動要支援者避難訓練参加
- 10月15日 新地町防災訓練(新地小学校)避難行動要支援者避難訓練参加
- 10月28日・29日 ふくしま防災フェア2017(相馬市)参加
- 1月23日 草津白根山噴火
- 3月4日 福島県防災士養成フォローアップ研修(郡山市労働福祉会館)参加
- 3月24日・25日 JA共済主催『中てれ祭り』参加 ③

## 2018年度 平成30年4月～平成31年3月

- 6月5日 郡山市自主防災組織講演会参加
- 6月16日 会津若松市旧年貢町町内会勉強会参加
- 6月18日 大阪北部地震M6.1
- 6月28日～7月8日 西日本豪雨
- 8月12日 棚倉町『地域コミュニティ強化事業』参加
- 9月3日 郡山市(安積地区/開成地区)『地域コミュニティ強化事業』参加
- 9月3日～5日 台風21号による暴風・高潮被害
- 9月6日 北海道胆振東部地震M6.7
- 9月6日 会津若松市(東年貢二区)『地域コミュニティ強化事業』参加
- 9月12日 いわき市立玉川中学校防災教育出前講座『クロスロードゲーム』参加
- 10月10日 西日本豪雨被害支援活動 中国地方支部連絡協議会へ支援金寄贈
- 10月20日・21日 ふくしま防災フェア2018(会津若松市)参加 ④
- 10月28日 桑折町防災訓練参加
- 11月17日・18日 緊急消防援助隊北海道東北ブロック合同訓練参加
- 1月22日 ふくしま防災塾トップ59参加
- 2月24日 いわき市勿来地区避難所実動訓練参加
- 2月28日 桑折町社会福祉協議会『災害救援ボランティア養成講座』参加

## 2019年度 平成31年4月～令和2年3月

- 6月30日 福島県自主防災活動促進事業 避難所運営ゲーム(桑折町)参加
- 7月25日 いわき市関田地区『地域コミュニティ強化事業』参加
- 7月27日 福島市下川崎地区『地域コミュニティ強化事業』参加

- 7月28日 白河市西三坂地区『地域コミュニティ強化事業』参加
- 8月3日・4日 桑折町半田地区小学生防災合宿参加
- 8月27日・28日 令和元年8月の前線に伴う大雨
- 8月31日 そうまジュニア防災マスター(相馬市立飯豊小学校)参加
- 10月12日・13日 令和元年東日本台風(台風19号)
- 10月20日・21日 台風19号被害ボランティア活動(郡山市内、いわき市内)参加
- 11月29日 愛媛県支部 女性部長 藤岡緑様より令和元年東日本台風被害支援金100,000円寄付
- 12月7日・8日 台風19号被害受援対応(奈良県、和歌山県、大阪府)の対応
- 2月3日 新型コロナウイルス感染症ダイヤモンドプリンセス号横浜港で検疫開始
- 3月7日 鏡石町社会福祉協議会『ボランティア入門講座』参加

## 2020年度 令和2年4月～令和3年3月

- 7月3日～7日 7月豪雨被害
- 7月30日 郡山市内爆発事故
- 11月27日 NHK福島放送局との連携協力に関する協定書締結 ⑤
- 12月1日 いわき市立豊間中学校防災研修1年生『災害図上訓練』、2年生『クロスロードゲーム(ボランティア編)』参加
- 12月18日 福島市地域防災力強化事業講演会 杉妻地区自主防災会まち歩き参加
- 2月13日 福島県沖を震源とする地震発生M7.3(最大震度6強)
- 3月16日 学校法人昌平賢との防災教育及び活動に関する協定書締結 ⑥

## 2021年度 令和3年4月～令和4年3月

- 6月20日 福島市信陵学習センター『市民講座』参加
- 7月3日 熱海市伊豆山土砂災害
- 8月11日～19日 8月豪雨被害
- 9月22日 三春町区長会研修会参加
- 11月6日 イオンモールいわき小名浜 防災グッズ作成コーナー参加
- 12月10日 相馬市立向陽中学校地震避難訓練参加
- 1月15日 トンガ海底火山噴火に伴う津波
- 3月16日 福島県沖を震源とする地震発生M7.4(最大震度6強)
- 3月29日 テレビュー福島との連携協力に関する協定書締結

## 2022年度 令和4年4月～

- 4月17日 南相馬市災害ボランティア活動参加
- 7月8日 福島中央テレビとの連携協力に関する協定書締結

## どうい手順で計画をつくるの？

### 1 計画の対象範囲を決める

- 地区防災計画における「地区」は、自主防災組織、町内会・自治会、商店街、小学校区、マンション管理組合など、地域の事情に応じて自由に決めることができます。  
⇒ まずは地区の防災士に相談してみましょう！(関連することもできます)

### 2 地区の特性を知る

- 自然特性：過去の災害、想定される災害
- 社会特性：居住者の年齢層、助け合いの仕組み
- 特性をみんなで確認するために、「災害向上訓練」や「防災まち歩き」、「避難所指定場所の実地確認」などに取り組みます。  
⇒ まちの地図を見ながら、被災想定やハザードマップを確認しましょう！

### 3 活動内容と役割分担を決める

- 初期消火、救出・救助、避難誘導、避難所開設等をあらかじめ決めておいた役割分担で、すばやく対応します。  
⇒ 避難誘導、初期消火、応急手当、救急出しなど、多様な訓練に挑戦しましょう！
- 防災教育・防災訓練、防災まちづくり、資料構築、各種団体の連携協議、計画の継続的な見直しなどの計画を定めておきます。  
⇒ いざという時に迅速に対応できるように、日頃から力を合わせて取り組み、みんなで役割分担を決めておきましょう！

災害時

平常時

### 4 計画案をまとめ、みんなで合意

- 「地区(自分たちのまち)」でできる現実的な計画を作り、みんなで確認し、合意します。  
⇒ みんなで作作り、みんなで守る計画にしましょう！

### 5 市町村防災会議に提出

- あらかじめ市町村防災担当と話し合った上で提出します。  
⇒ 防災担当とのコミュニケーションを心がけましょう！

イラスト出典：いんすたや、日本防災士会

お問い合わせ 特定非営利活動法人 日本防災士会

〒102-0082 東京都千代田区一橋町25番地 全国市町村議員会館3階

TEL:03-3263-1978 FAX:03-3263-1583 <http://www.bouaisaikai.jp/>

※ 本会会、防災士と関係のある特定で構成されたIPDで、登録番号03-0826 (令和12月末日現在)です。

# みんなで作ろう！ 地区防災計画

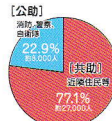


～ 家族を守り まちを守る ～

## あなたの「まち」では、いざという時の備えできていますか？

### なぜ「地区防災計画」が必要なの？

- 災害発生時、助けてくれるのは近隣住民です。
- 災害による被害を最小化し、一人取り残さないためには、「自助」の充実はもちろんですが、行政が作る「地域防災計画」と、住民で作る「地区防災計画」を車の両輪として進めることが重要で、
- 「地区防災計画」を通して、いろんな人々つながることで、無限度の可能性を拓く「自助+共助」を推進することができます。



自助 (義務)	自助+共助 (義務)	公助 (義務)
1	∞	1

出典：大災害時に望まれる自助、共助、公助の関係性

### 計画を作成した地区では、どんな反響があった？

- ① 地域を見つめなおす 絶好の機会になった！
  - ・ 自分たちのまちを改めて見直すことで、災害時の課題を認識できた。
  - ・ 地域の歴史を知ることで、まちの良きを発見できた。
- ② 新たな交流・ネットワークが生まれた！
  - ・ これまで交流がなかった人々たちと、お互いの見える関係になった。
  - ・ 民生委員や児童委員、社会福祉協議会や企業が参画して、地区内での新たな連携体制ができた。
- ③ 役割が明確になり、活動の継続性につながった！
  - ・ 計画作成に参加することで日頃からの役割と結び付いて、自分の役割を認識することができた。
  - ・ 災害時だけでなく、日頃の地域活動の活性化につながった。
- ④ 備えた分だけ安心につながった！
  - ・ 地域の危険箇所を共有することで、自分の備えも見直すことができた。
  - ・ ご近所や地区住民が一緒に取り組めるので、より安心感が高まった。

### 何を計画するの？

#### 1. 地区の特性に応じた計画

- あなたの「まち」の災害リスクと被害を想定し、地区内の危険箇所に応じた、「準備」と「行動」を話し合って、「誰一人取り残さない」計画を目指します。



#### 2. 地域コミュニティ主体のボトムアップ型の計画

- 計画は、地区の特性をよく知っている住民自身が作成しますので、範囲となる地区の設定は「自由」です。
- 災害も被害も多様化している中で、住民層々に合わせた計画が望まれます。
- コミュニティの中の事業所や福祉施設などと、一緒になって取り組むことも考えましょう！

#### 3. 継続的に地区防災力を向上させる計画

- はじめは、新1枚の計画書でもOKです。
- 計画、実行、見直しをくりかえし、年々進化・充実を繰り返しましょう！



### 地区防災計画をもっと詳しく知りたい方はこちら！

内閣府「みんなでつくる地区防災計画」  
<http://www.bouaisai.jp/> <http://kyokoku-chubuouai.jp/>

男女共同参画局「災害対応力を強化する女性の視点」  
<https://www.gender.go.jp/policy/sesai/hukousu/guide/female/>

内閣府「防災計画ガイドライン」(2023.3)  
<http://www.bouaisai.jp/kyokoku-dpf/guideline.pdf>

地区防災計画学会  
<https://www.dpf.or.jp/>

## ● 日本防災士会会員の活動理念 ●

- 第1 日本防災士会会員(以下「会員」という)は、地区防災力の向上に努め、防災協働社会の実現に寄与することを活動の基本理念とする。
- 第2 会員は、地区の防災活動に参画し、災害の事前対策、応急対策等、地区防災計画の策定・実施に関し、指導的役割を果たすものとする。  
そのために、次の事項に積極的に取り組むものとする。
  - 1 会員相互のネットワークを構築し、協力関係を確立すること。
  - 2 地区防災活動のリーダーにふさわしい防災知識・技能の研さんに努めること。
  - 3 自治体との緊密な連携を図ること。